

對酒不覺暮

飲此酒秋衣

鬼物を画くもやましく狗馬紙なるを
オニバケモノ
画くし古人乃確言クラクゲンかゝ画くは眼前の萬
象をばよりて寫しんや目力を盡し
心思を盡してこそ鳥をばんと欲し人の語
らんと欲しやあやしく雪をむきぬくもかき
はくも戴斗箱の妙を何ぞ余り云紙は余
特に箱の心を明くる乃ほく厚き紙なり心紙
畫はあゝ更にいふ所かゝ物に其美をばんや是

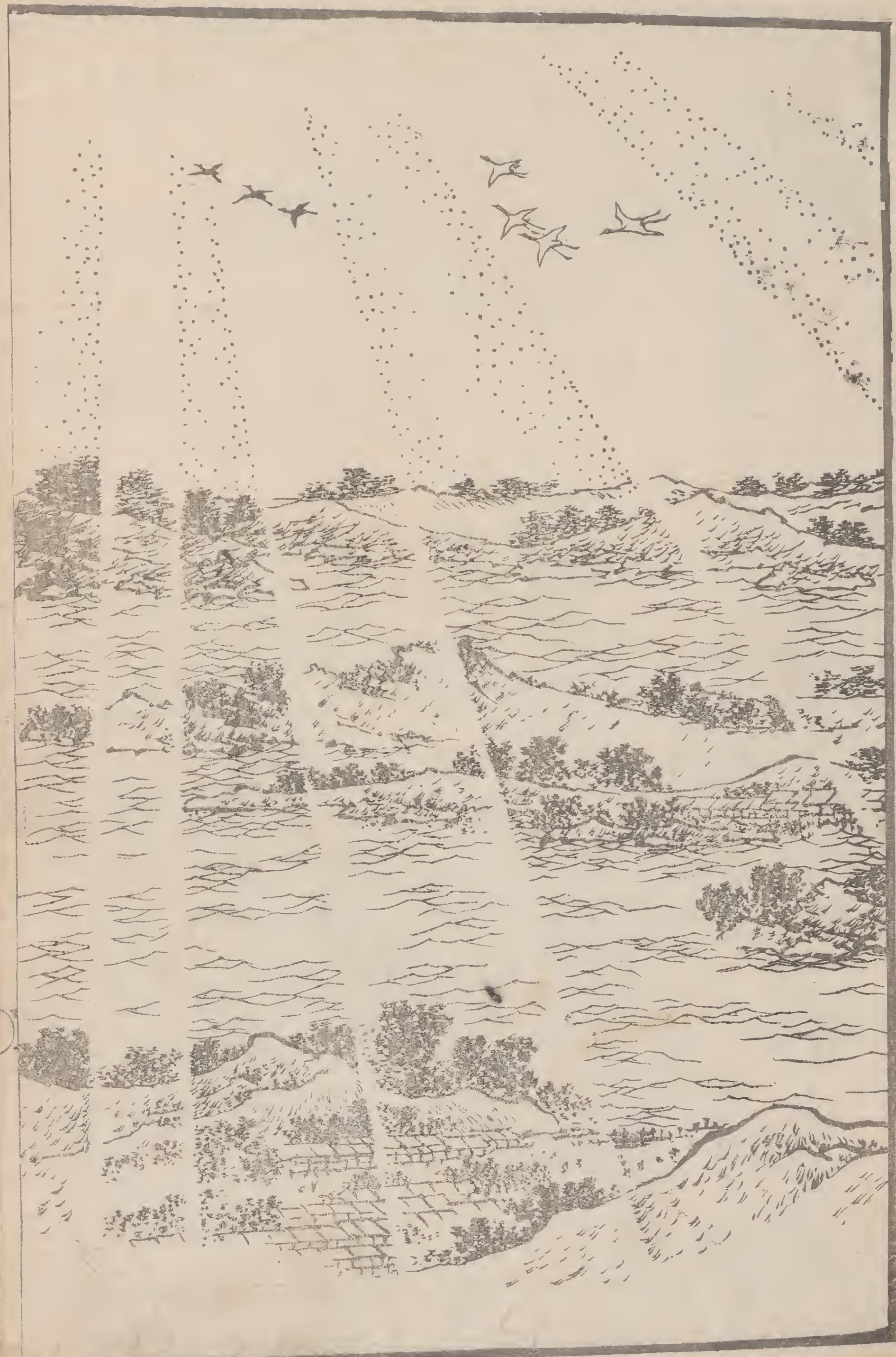
みふのそをのひ見無人をを井のい即ち
 持もく箱を箱妙を集えく一家誠なせる
 一糸を糸て糸の木のう具あるものねん
 登題^{セニダイ}のえを箱の良居景景にあつて筆張
 海^ゲも一やとおもひに貴心樂事もは中
 あるも又何そ余のそをゆへん

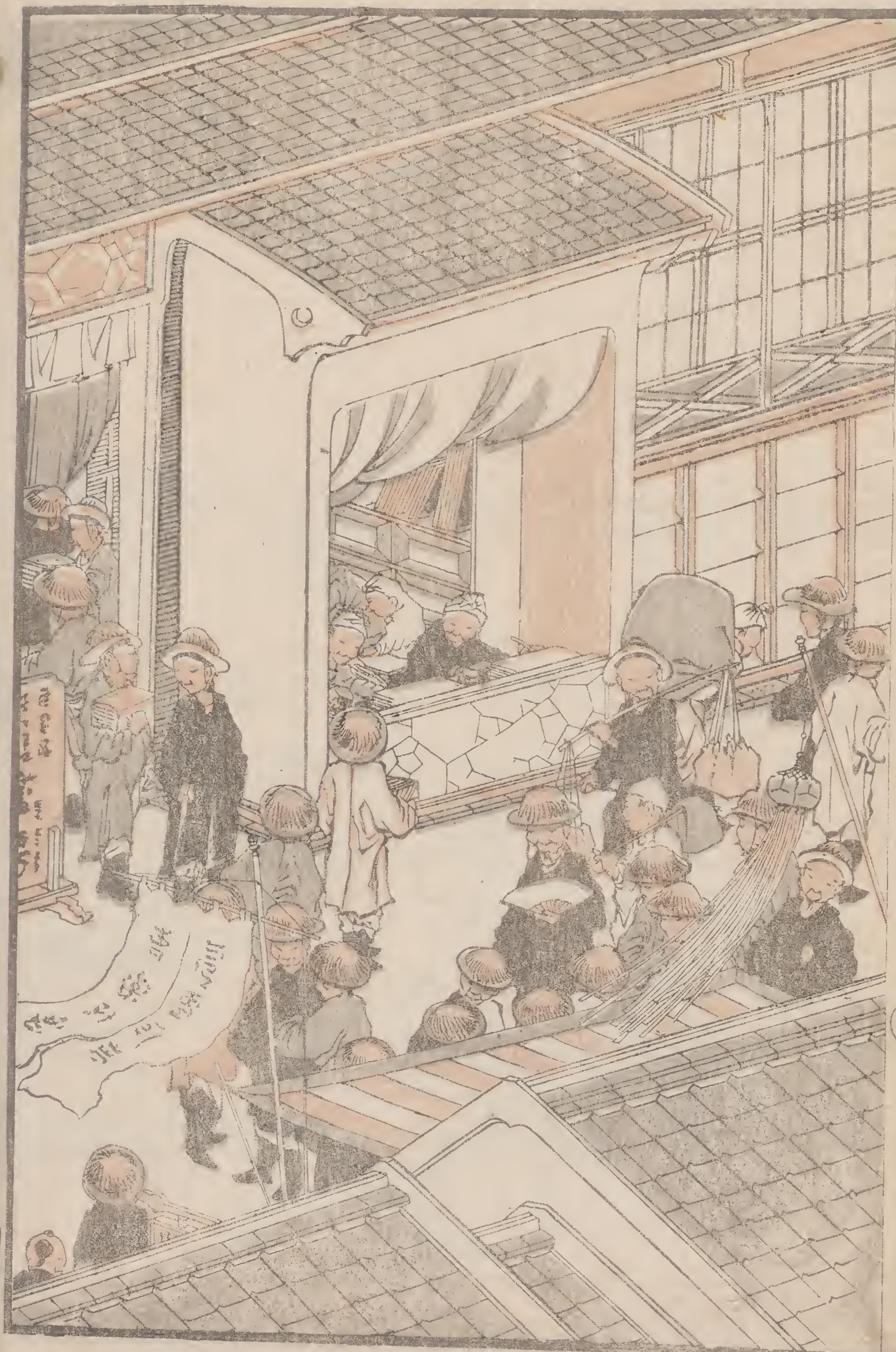
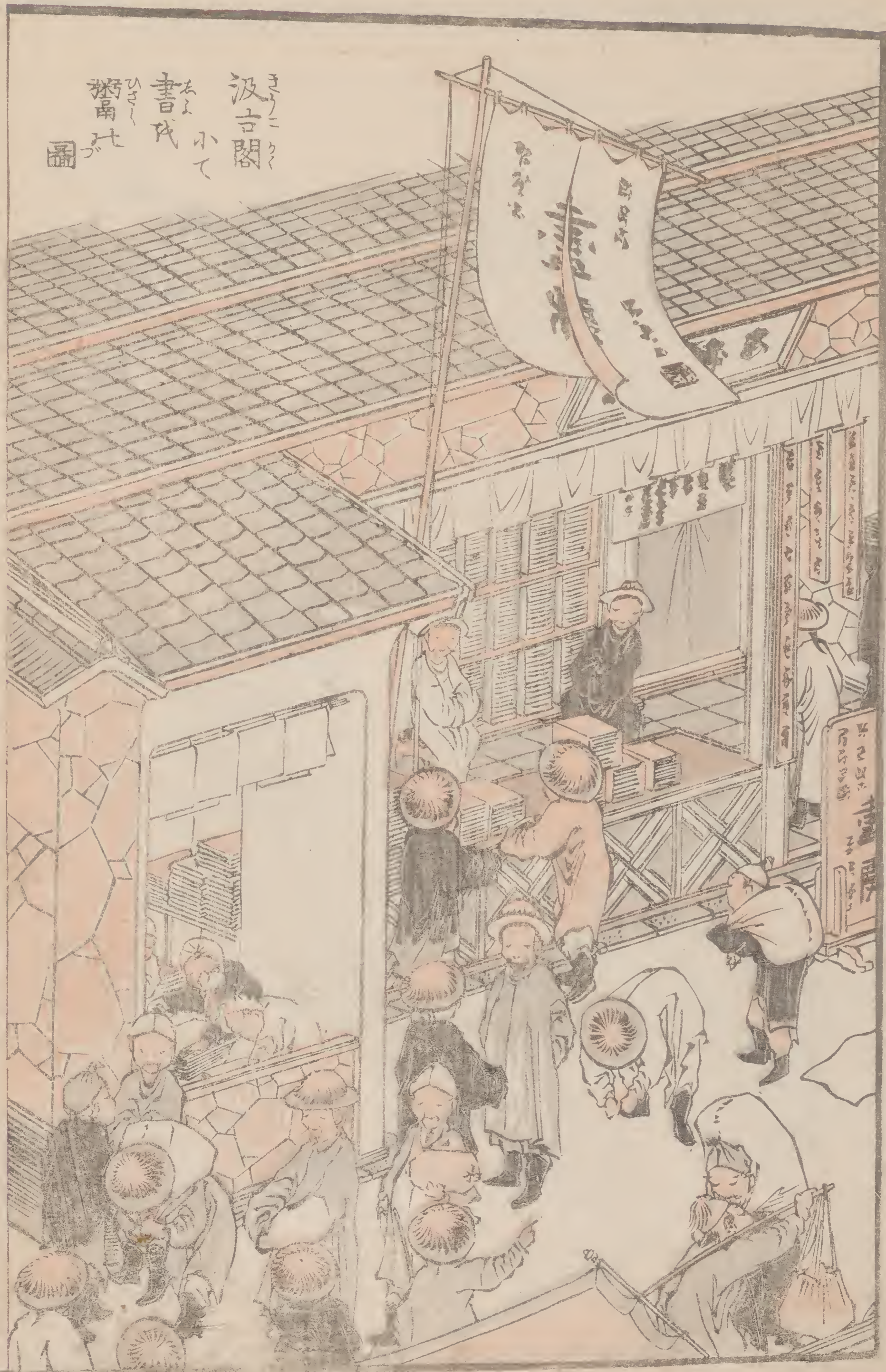
又三居五月

酒人題

墨精







雪
中
代
万
歳





春雨
往來



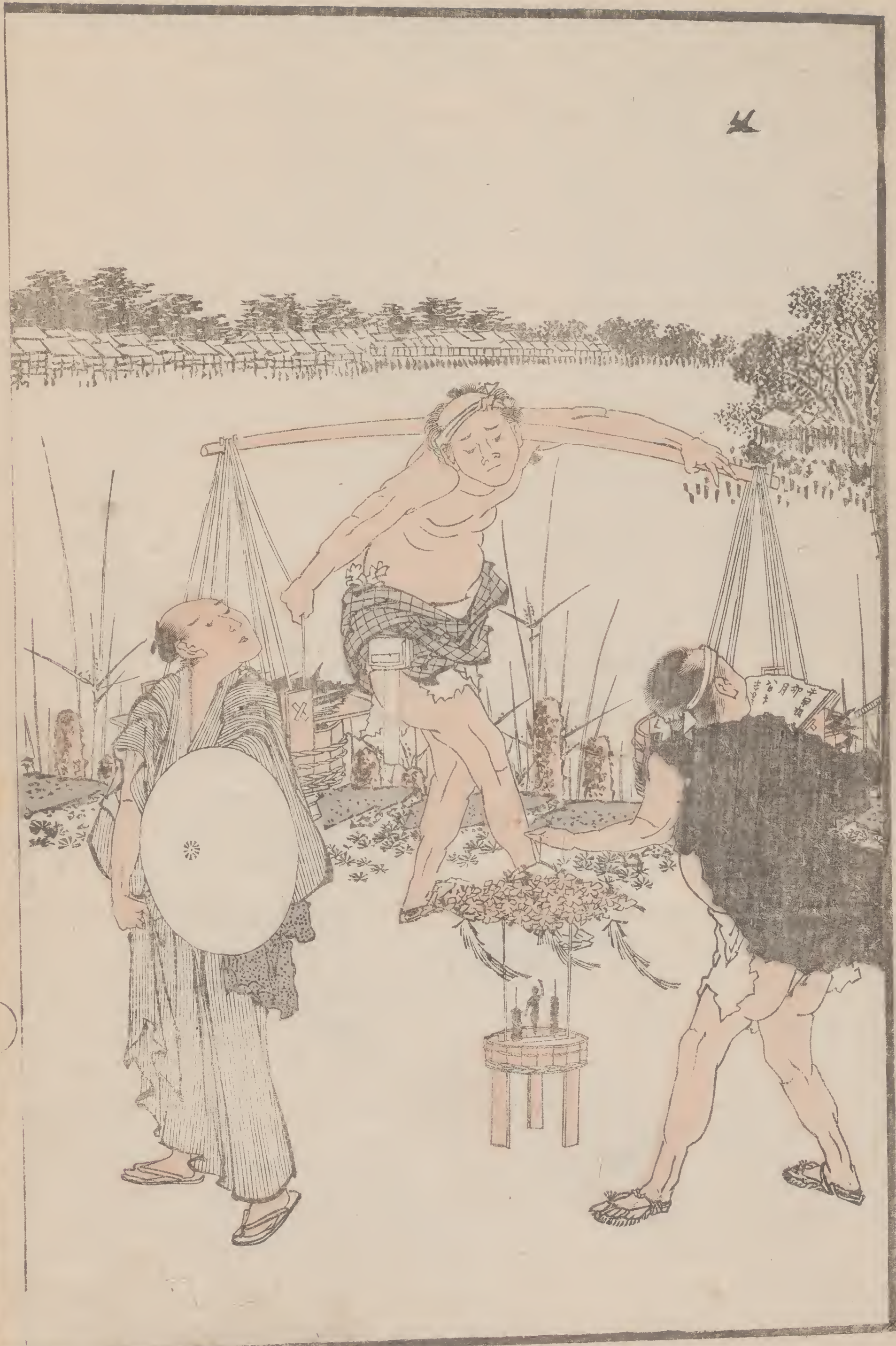




雪解川
ユキゲガハ







目め
あき
吉葉
山郭公
柳松魚





山吹

文鳥

雀



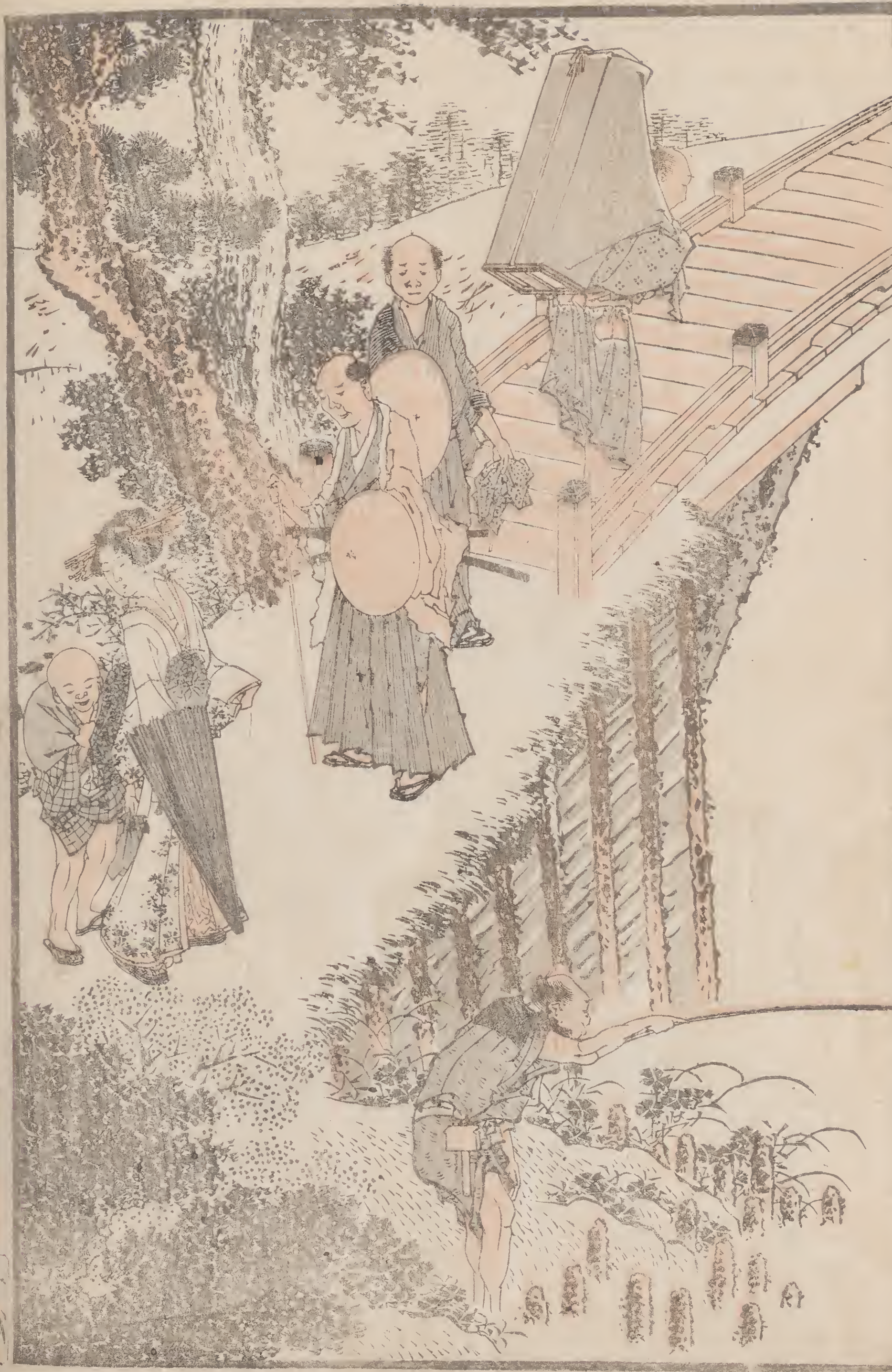
蛇

石竹

雙燕

蜂

夏
生
来





蛇へび
 子こ
 巻まき



山晚
水寒
此



秋
七
廿





水邊の月



山家の月



月夜
往來



野の
分



盲人越川



悟道





郭子儀

ゆづりの
雪に曙



餅
播







書林

東都画工
尾陽名古屋

葛飾戴斗筆

校門人

月光亭墨仙
戴璪
北鷹
月齋哥政

江戸糺町平川町二丁目

角丸屋甚助

尾州名古屋本町七丁目

永樂屋東四郎

同 傳馬町

美濃屋清七

同 中市場町

美濃屋市兵衛

同 小牧町

美濃屋一仁



青陽
せいやう



醉起東溪月

今夕還人亦歸